

- 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard」、
- 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Essentials」、
- 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation」
- 「Windows Server 2012 R2」
- ・「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter」または、
- 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard」、
- 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials」、
- 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation」
- 「Windows Server 2012」
- ・「Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 8.6 (for Intel64)」
- 「RHEL8.6」
- ・「Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 8.4 (for Intel64)」
- 「RHEL8.4」
- ・次の製品すべてを指す場合は、「Windows」と表記しています。
- Windows 11
- Windows 10
- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- ・輸出管理規制について
- 本ソフトウェアを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

1. 製品概要

1. 1 SIMPLIAとは？

- ・SIMPLIA(SIMple development & maintenance support Program LIbraries for Application system)は、アプリケーション開発・保守作業を支援するツール群の総称です。
- ・SIMPLIA製品を導入することにより、作業効率アップ・生産性/品質向上などの効果が期待できます。

SIMPLIA製品は、機能別に以下の体系に分類されます。

PFシリーズ	主にプログラム設計工程をサポートします。 プログラム設計書自動出力ツール
TFシリーズ	主にテスト工程をサポートします。 テストデータ作成支援ツール、コード変換ツール など
VFシリーズ	テスト結果の確認作業等の検証作業をサポートします。 ファイル内容比較ツール
DFシリーズ	各種ドキュメントを出力します。 クロスリファレンス、ファイルレイアウト、ジョブフロー など
MFシリーズ	主に保守・管理工程をサポートします。 プログラムステップ計測ツール

1. 2 SIMPLIA TF-LINDA (COBOL)とは？

- ・本製品は、アプリケーション開発支援システムの1つであり、サーバ/クライアントでの動作により、テストデータの作成、検証を支援するツールです。
サーバ上のCOBOLデータファイルを、COBOLの登録集原文等に基づき、項目単位に操作(作成/検証)します。
- ・本製品は、以下の基本機能を提供します。

- データ編集機能
サーバ上のCOBOLデータファイルの編集が可能です。
新規作成、既存データの表示・更新・追加が行えます。
COBOLの登録集原文、YPSインクルード仕様書、またはレイアウト定義ファイルに基づき、項目単位での編集が可能です。
データ項目単位に生成条件を指定し、テストデータの自動生成が行えます。
16進数による表示/編集が行えます。
- データ検証支援機能
データ内容や項目名での検索が行えます。
編集中のデータ内容を一覧形式イメージで印刷することが可能です。
- インポート/エクスポート機能 (MDPORT連携機能)
SIMPLIA TF-MDPORT Pro をインストールしている場合、編集中のデータを異なるコード、ファイル形式に変換し入出力が行えます。

1. 3 製品構成

- ・本製品は、CD-ROMで提供されます。
- ・本製品にはマニュアルは添付されておりません。使用方法については製品本体に組み込まれているユーザーズガイドを参照してください。
- ・提供形式 : CD-ROM × 1枚
 - 製品本体
 <server>フォルダ・・・サーバ側インストール媒体
 <client>フォルダ・・・クライアント側インストール媒体
 <V81L10>フォルダ・・・前版V81L10製品本体

1. 4 ハードウェア条件

カテゴリ	要件
動作マシン	Windows 11 Windows 10 Windows Server 2022 Windows Server 2019 Windows Server 2016 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2012 が動作するマシン
動作可能メモリ容量	256MB以上
格納先ハードディスク容量	80MB以上

※ ハードディスク容量は、機能選択やハードディスクの属性(クラスタなど)により異なりますので、注意してください。

2. ユーザーズガイドについて

- ・本製品には、以下のユーザーズガイドが含まれています。
 - SIMPLIA TF-LINDA(COBOL) (Linux 64bit) V81L20 ユーザーズガイド

※ ユーザーズガイドは、Microsoft Edgeで参照してください。

3. ソフトウェア組み合わせ条件

3. 1 必須ソフトウェア

ソフトウェア	要件	備考
OS	Windows 11 Windows 10 Windows Server 2022 Windows Server 2019 Windows Server 2016 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2012	本製品は左記のいずれかのOSが必要です。

※ 64bit用のOSをご使用の場合は、WOW64環境で動作します。

3. 2 関連ソフトウェア

ソフトウェア	要件	備考
YPS/COBOL	V5. 1L10～ V5. 3L20	YPSインクルード仕様書を解析することができます。
Interstage Charset Manager Standard Edition Agent (*1)	V9. 4. 0～ V9. 6. 0 V10. 0. 0	コード変換処理にCharset Managerを使用することができます。 JEF コードの変換や利用者定義文字の変換を行うのであれば、Charset Managerを使用してください。 データファイルのコードがUTF-16またはUTF-32の場合は必須です。
JEF拡張漢字サポート (*2)	V8. 0. 0～ V9. 3. 0	JEF拡張漢字、JEF拡張非漢字、利用者定義文字を利用したデータの編集/表示/印刷を行うことができます。
SIMPLIA TF-MDPORT Pro (*2)	V81L10～ V81L11	編集データを他形式(コード、データ構造、ファイル編成等)に変換することができます。

(*1)V9. 4. 0～V9. 6. 0では、Windows 32bit版の製品が必要です。

V10. 0. 0は、64bit版のみの製品ですが、本製品と組み合わせて使用可能です。

(*2)Windows 32bit版の製品が必要です。

4. インストール手順

4. 1 アイコンおよびフォルダについて

- ・インストールが完了すると、グループ「SIMPLIAシリーズ」の「TF-LINDA(COBOL) (Linux 64bit) CL V81」の配下に以下のアイコンが作成され
ます。

— SIMPLIA TF-LINDA(COBOL) (Linux 64bit) CL

- SIMPLIA TF-LINDA(COBOL) (Linux 64bit) GL ソフトウェア説明書
- SIMPLIA TF-LINDA(COBOL) (Linux 64bit) GL ユーザーズガイド
- ・インストールが完了すると、インストールしたシステムのレジストリ情報にインストール情報が格納されます。
- ・インストールが完了すると、以下のフォルダ構成でファイルが格納されます。

TF-LINDA_COBOL_x64-Linux_GL : EXE等の実行資産が格納されます。

- ANALYZER : EXE等の実行資産が格納されます。
- HELP : HTML形式のユーザーズガイドが格納されます。
llc_idx.htm[起動ファイル]
- SAMPLE : 利用者定義変換テーブルのサンプル資産が格納されます。

4. 2 インストール時の注意事項

- ・サーバ側のOSとして、RHEL8.6より前のOS(例: RHEL8.4)を使用する場合は、本製品はインストールせずに、下記「11.1 注意事項」をご参照の上、製品CD-ROM同梱の前版V81L10をインストールしてください。
- ・本製品はAdministrator権限のあるユーザでインストールを行ってください。Administrator権限のないユーザでインストーラを起動した場合、インストールが正常に終了しないことがあります。
- ・実行中のアプリケーションをすべて終了した後に、本製品をインストールしてください。終了しない場合、インストールに失敗することがあります。
- ・インストール先の選択画面で指定するインストール先は、フルパスで指定してください。
- ・インストール先の選択画面でインストール先を指定して次画面に遷移した後に、「戻る」ボタンで再度、インストール先の選択画面に戻ってインストール先を変更指定すると以前に指定していたフォルダが作成されたままになることがあります。
- ・インストール時に十分な空きディスク容量があっても、ディスクの属性(セクタなど)によりファイル複写中に容量不足が発生することがあります。この場合、既に複写されたフォルダやファイルを削除した後、インストール先のドライブを変更するか、更に十分な空きディスク容量を確保した上で、再インストールを行ってください。
- ・再インストールする場合には、ハードディスクの空きスペースを確認してから行ってください。
- ・インストール先にドライブルートおよびネットワークドライブは指定しないでください。正しくインストールされない場合があります。
- ・インストール時に、ユーザ情報画面で「現在のユーザのみ」を選択した場合、管理者権限のあるユーザであっても、正しくアンインストールを行うことができない場合があります。そのため、支障がない限り「このコンピュータを使う全ユーザ」(全てのユーザー)を指定してください。

<以前のバージョンからの移行について>

- ・既に以前のバージョンレベルがインストールされている環境に、本製品を上書きインストールすることはできません。お手数ですがアンインストールした後、インストールを行い、環境を再設定してください。

4. 3 インストール

- ・以下の手順で、インストールを実施してください。

- (1) 実行中のアプリケーションをすべて終了してください。
- (2) 製品CD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。
- (3) CD-ROMの“client”フォルダ配下の“setup.exe”を実行してください。
- (4) 以降、画面に表示される指示に従って、インストールを進めてください。

※ 正しくインストーラが起動しない場合は、CD-ROMの“client”フォルダー一式をシステムドライブにコピーの後、コピー先の“setup.exe”を実行してください。

5. サンプルデータでの動作確認手順

- ・本製品動作確認のためのサンプルデータは添付されていません。

※ 利用者定義変換テーブルのサンプルデータの使用方法については、ユーザズガイドを参照してください。

6. アンインストール手順

6. 1 アンインストール時の注意事項

- ・アンインストールは、製品のインストーラにより作成された環境、および複製されたファイルに対してだけ削除処理を行います。製品の使用などにより作成された環境およびファイルに対しては削除処理を行いません。
- ・他製品と連携している可能性がある場合については、アンインストール後でも製品フォルダが残る場合があります。

6. 2 アンインストール

- ・以下の手順で、アンインストールを実施してください。
※ 下記の説明は、Windows 10を元に説明をしています。

- (1) [スタート]メニューをクリックします。
- (2) [コントロールパネル]をクリックし、コントロールパネルを開きます。
- (3) [プログラムのアンインストール]または[プログラムと機能]を選択し、[プログラムのアンインストールまたは変更]画面よりアンインストールを行ってください。
- (4) 以降、画面に表示される指示に従って、アンインストールを進めてください。

7. エンハンス事項

以下に、V81L10からV81L20へのエンハンス事項を示します。

- ・Windows 11、Windows Server 2022に対応しました。

以下に、V81L10からV81L20への改善事項を示します。

- ・ ユーザーズガイドの記述内容を改善しました。
- ・ 本製品が出力するメッセージを改善しました。
- ・ 可変長の索引編成ファイルにおける、レコード複写処理を改善しました。
- ・ MDPORト連携画面で、インポートするCSVファイルの引用符指定を改善しました。
- ・ 環境設定(日本語名標辞書)画面のヘルプ表示を改善しました。
- ・ 英数字編集項目を検索/置換する場合においても、大文字/小文字を区別するしないを選択できるように改善しました。

以下に、V81L10からV81L20への非互換事項を示します。

- ・ 非互換情報はありません。

以下に、V50L70からV81L10へのエンハンス事項を示します。

- ・ Windows Server 2019に対応しました。
- ・ UTF-16のCOBOLデータファイルに対応しました。
- ・ UTF-32のCOBOLデータファイルに対応しました。
- ・ 日本語名標辞書機能に対応しました。
- ・ コード変換エラーとしていたEBCDIC系タブコードを扱えるように対応しました。

以下に、V50L70からV81L10への改善事項を示します。

- ・ インストール先フォルダのセキュリティを強化しました。
- ・ 利用者定義変換テーブルのチェック機能を強化しました。
- ・ NULLデータにおける画面表示の扱いを改善しました。
- ・ 浮動小数点項目における画面表示の扱いを改善しました。
- ・ 検索画面/文字列の置換画面/レコード形式画面/一覧形式画面におけるフォント指定を共通化しました。
- ・ Unicode(UCS2)のデータファイルを扱う場合に、コード変換にCharset Managerを使用できるように改善しました。
- ・ 本製品の操作性を改善しました。
- ・ 本製品の入力チェックを強化しました。
- ・ 本製品が出力するメッセージを改善しました。
- ・ ユーザーズガイドの記述内容を改善しました。
- ・ フォーマットの解析方法の指定が不要になりました。
- ・ ステータスバーに表示しているカーソル位置の表示情報について、カーソル位置を「現在位置(単位:文字数)/属性長(単位:桁数)」の形式で表示するように改善しました。

以下に、V50L70からV81L10への非互換事項を示します。

- ・ MDPORト連携機能におけるXML形式ファイルのインポート/エクスポートを廃止しました。
- ・ フォーマット解析方法のファイル種別で、ファイル定義体を指定した解析を廃止しました。
- ・ レコード形式画面/一覧形式画面にて、Unicode文字によるデータの入力に対応したため、コード変換情報のコード変換仕様で、iconv変換のキーワードに「sjisdos」と「jefcorekana」を扱うことを廃止しました。
- ・ 利用者定義変換テーブルを用いたデータの変換処理を使用する場合は、旧版で使用したものをそのまま扱うことはできません。
コード系定義文に「UCS2」では無く、「UTF16」を指定してください。
<例>
旧版 # SJIS UCS2
今後 # SJIS UTF16
- ・ 利用者定義変換テーブルのコード対応定義データの記述方法を変更しました。
 - － EUCカナ(コードセット2)を指定する場合は、“8E”を付加して4桁で指定します。
 - － 記述可能なコード範囲は、文字コードとして定義されている領域となります。
- ・ 16進編集バーにおいて、カーソル位置のステータスバーへの連動表示を廃止しまし

- た。
- ・ Unicode編集ダイアログボックスを廃止しました。レコード形式画面/一覧形式画面にて入力を行ってください。
 - ・ 代替文字の出力仕様は、以下の通りに変更しました。
 - － EUCのデータファイルを扱う場合の英数字項目において、“0x8E”ではじまるコードを表示する場合の代替コード(“0x8EA1”から“0x8EDF”を除く)は、1バイト系代替コードを使用します。
 - － JEFのデータファイルを扱う場合の英数字項目において、1バイト目がコード範囲外で変換エラーとなる2バイト系コードの代替コードは、1バイト系代替コードを使用します。
 - － JEFのデータファイルを扱う場合の英数字項目において、2バイト目が制御コードで変換エラーとなる2バイト系コードの代替コードは、1バイト系代替コードを使用します。
 - ・ 文字コードの変換仕様は、以下の通りに変更しました。
 - － Unicode (UTF8、UCS2) からシフトJISへの変換時、IBM拡張文字に変換していた13文字がNEC特殊文字に変換されます。
 - － Unicode (UTF8、UCS2) からEUC (S90) への変換時、拡張文字に変換していた9文字がJIS非漢字に変換されます。

8. 旧版からの移行について

- ・ V50系で作成したテストケースファイル(拡張子:LNC)はそのまま扱うことができます。ただし1度使用すると、自動的にV81用として再構築されるため、旧版では使用できなくなります。
- ・ V50系で作成したデータ生成書式情報ファイル(拡張子:LDF)はそのまま扱うことができません。V81で再度設定を行ってください。
テストケースファイルを保存するフォルダに存在する場合は、これらを削除してからお使いください。
- ・ MDPORT連携機能において、XML形式のファイルを扱う機能は、V81L10より廃止しました。
- ・ フォーマット解析方法において、ファイル定義体をフォーマットファイルとして指定する機能は、V81L10より廃止しました。
- ・ その他本製品の注意事項については、7. エンハンス事項を参照してください。

9. セキュリティについて

- ・ 本製品はイントラネット環境下で使用してください。

10. SIMPLIA製品に関する情報

- ・ SIMPLIA製品に関する最新の情報は、下記のURLアドレスのサイト内検索で「SIMPLIA」と入力してください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/>

11. 補足事項

11. 1 注意事項

- ・サーバ側のOSとして、RHEL8.6より前のOS(例：RHEL8.4)を使用する場合、本製品はインストールせずに、以下の方法で、本製品同梱の前版V81L10をインストールしてください。

[V81L10<クライアント>のインストール方法]

本製品をインストール済であれば、アンインストールした後
製品CD-ROM“V81L10¥client”フォルダ配下の“SETUP.EXE”を実行してインストールしてください。

※V81L10<クライアント>においても、必須・関連ソフトウェアは、本製品と同一となります。

※サーバ側も前版V81L10をインストールする必要がありますのでご注意ください。
V81L10<サーバ>のインストール方法については、本製品のインストールガイドをお読みください。

- ・本製品と同一バージョンレベルのサーバ機能に対してのみ接続可能です。
- ・以下のフォルダの出力先を指定する場合は、本製品が動作するユーザで出力可能なフォルダを指定してください。
 - － テストケースファイルを保存するフォルダ
 - － LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ
- ・本製品をReFSフォーマットのファイルシステムで運用することはできません。
インストール先にReFSフォーマットのフォルダを指定しないでください。
- ・数値項目で扱える桁数は18桁までです。
- ・UTF-8の行順編成ファイルを扱う場合、4バイト以上のコードを扱うことはできません。
- ・IPv4環境下での管理ツール(サーバ側機能)の出力結果において、IPアドレスの出力フォーマットを射影アドレス表記に変更しました。
- ・一覧形式画面のデータ編集域(ツールバー下)は、表示のみとなりました。データの編集を行う場合は、一覧形式画面のセルで行ってください。
- ・一覧画面において検索/置換を行う場合、全角アルファベットを正しく扱うことはできません。
- ・レコードデータの最後が英数字項目で、全角文字が含まれる場合、印刷または印刷プレビューで表示される終端記号がずれます。
- ・複数のコードが割り当てられている字体は下記の通りに扱われます。
 - － JIS漢字/非漢字に割り当てられている場合はJIS漢字/JIS非漢字で保存され、それ以外はIBM選定漢字/IBM選定非漢字で保存されます。
- ・USAGE IS COMPUTATIONAL-6句を記述して、Micro Focus固有の符号の領域がない内部10進形式のデータを扱うことはできません。
- ・富士通メインフレームの浮動小数点形式のデータを扱うことはできません。
- ・Windows 10では、Windows簡単操作のディスプレイで文字を大きくする機能を使用できますが、本製品で該当機能を使用すると一部画面描画が確認できない場合があります。
- ・Windows 8.1以降およびWindows Server 2012以降では、IVS(Ideographic Variation Sequence)を利用した文字を使用できますが、本製品ではIVSを利用した文字は扱うことはできません。

- ・ JIS2004の4バイトコードで表現される文字を使用した場合は、正しく動作いたしません。
 - － 入力項目に入力した場合
 - － 文字を含むフォルダ名、ファイル名を選択した場合
 - － 文字を含むデータを入力した場合
(レコード形式画面/一覧形式画面/検索画面/文字列の置換画面は除く)
- ・ シフトJIS以外の日本語文字が含まれるファイル名およびフォルダ名を正しく扱うことはできません。
- ・ COBOLファイルの扱いについては、NetCOBOLのユーザーズガイドを参照してください。
- ・ インストール時に作成されるファイルは、アンインストール以外の方法で削除しないでください。
- ・ 本製品が正常に終了できなかった場合、本製品固有の一時ファイルが残る可能性があります。
- ・ リモートデスクトップサービス/XenApp使用時のライセンス

XenApp(Citrix XenApp)は、MetaFrameおよびCitrix Presentation Serverの後継製品です。ここでは、XenApp、MetaFrame、およびCitrix Presentation Serverを総称してXenAppと略します。

リモートデスクトップサービス/XenAppを使用して、本製品を使用する場合、リモートデスクトップサービス/XenAppを同時に利用するクライアント台数分のライセンスが必要です。

- ・ リモートデスクトップサービスへのインストール時の注意事項

リモートデスクトップサービスをお使いの場合は、オペレーティングシステムの状態をInstallモードに変更してください。

- － change user /install Installモードに変更する。
- － change user /execute Applicationの実行モードに変更する。
- － change user /query モードを表示する。

なお、本製品のインストール後はApplicationの実行モードに戻してください。

- ・ その他本製品の注意事項については、ユーザーズガイドを参照してください。

1 1. 2 高度な安全性が要求される用途への使用について

- ・ 本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

-
- ・ Microsoft、Windows、Visual Studio、Visual Basic、Microsoft Edge、Windows Server、その他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ・ Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、およびReaderは、Adobe Systems Incorporatedの米国またはその他の国における商標または登録商標です。
 - ・ Citrix、Citrix Presentation ServerおよびCitrix XenAppは、Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。
 - ・ Linux (R) は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
 - ・ MICRO FOCUSおよびMicro Focusロゴは、Micro Focus (IP)Limitedまたはその子会社の、英国、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
 - ・ Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc. の商標です。
 - ・ その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

本文中の記載内容は予告なしに変更される場合があります。
本文中の記載内容を無断で他に転載しないようお願いします。
本製品におけるソースコードは弊社または開発会社の秘密情報です。
弊社に無断でソースコードを第三者へ開示することを禁止します。